

# 環保研だより

Vol.12  
2008.8

## 環保研・学習サポートボックス!

**「学び、未来につなぐ」**

当研究センターでは、各担当が個別に実施していた環境学習を集約して新たに担当部所を設け、平成13年度から**環保研・学習サポートボックス**としてスタートしました。

水、大気、廃棄物など多くのテーマについて職員を講師として派遣したり、施設見学の受入れや実験等の体験学習を通じて環境保全意識の育成に取り組んでいます。

### 環境学習の目的と4つの段階

身近な環境や  
環境問題に  
関心を持つ環境に  
ついての理解や  
認識を深める環境に  
配慮した  
行動をとる継続し  
次世代に  
引き継ぐ

ビオトープ水辺の植物観察

### 環境学習を支援するセンターの取組み

**学習メニュー**

- 水質調査
- 水生生物調査
- 大気汚染について
- 地球環境
- CO<sub>2</sub>を測ろう
- 酸性雨
- 騒音学習など

**施設見学**

- 大気汚染常時監視システム
- 無響室
- ビオトープ
- 各研究室（高度安全実験室、自然環境研究室等）

**環境  
ライブラリー**

- 図書貸出
- パネル貸出
- パソコン利用
- 簡易測定器等の貸出  
(気体採取器・騒音計・網・バットほか)



車排ガス中の二酸化炭素を測る



水生生物調査



簡易水質検査・CODパケットテスト



地球環境問題について

私たちの豊かで便利な暮らしは、大気を汚し、水を汚し、大量の廃棄物と二酸化炭素を排出し環境に負荷を与えています。地球上の全ての人達に豊かに暮らす権利があり、みんなそれを望んでいます。それには、地球の限り有る資源を大切に、毎日を、丁寧に暮らすことが大切です。環保研・学習サポートボックスが、共に美しい地球を次世代の人たちにバトンタッチするための後押しになれば良いと考えています。



- ★連絡先電話番号 087-825-0415 (企画情報)
- ★ホームページ [http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/e\\_center/gakushu.htm](http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/e_center/gakushu.htm)

# アスベスト対策について

アスベストは、繊維が非常に細く、丈夫で変化しにくいいため、肺の中に入ると組織に刺さり、長期の潜伏期間を経て肺がんや中皮腫などの病気になるおそれがあるため、現在では製造が禁止されています。

アスベストが使われた建築物の老朽化に伴い、解体

等の工事が増加しており、2020年から2040年頃にピークを迎えると予想されています。県民の安全と安心を確保するため、**当研究センター**では、建材中及び大気環境中のアスベストの測定を行っています。

## ▶ 建材中のアスベストの測定

これまで建材等に使用されていたアスベストは主にクリソタイル（白石綿）、アモサイト（茶石綿）、クロシドライト（青石綿）の3種類とされていたことから、平成17年における県有施設のアスベスト使用実態調査では、これら3種類を分析対象として調査を行いました。しかし、最近、建築物において吹付け材からトレモライト、アクチノライト、アンソフィライトが検出される事例が明らかになったため、これまで分析調査をしていないトレモライト等3種類のアスベスト含有吹付け材の使用状況について、**当研究センター**で確認検査を実施しています。

検査は顕微鏡とX線回折装置の両方を用いて行い、県民の安全、安心のために迅速かつ精確に検査を行うとともに、検査する職員の安全性も確保しながら実施しています。



トレモライト/アクチノライトの顕微鏡写真（倍率：×400）  
トレモライト/アクチノライトが青く発色して見える。

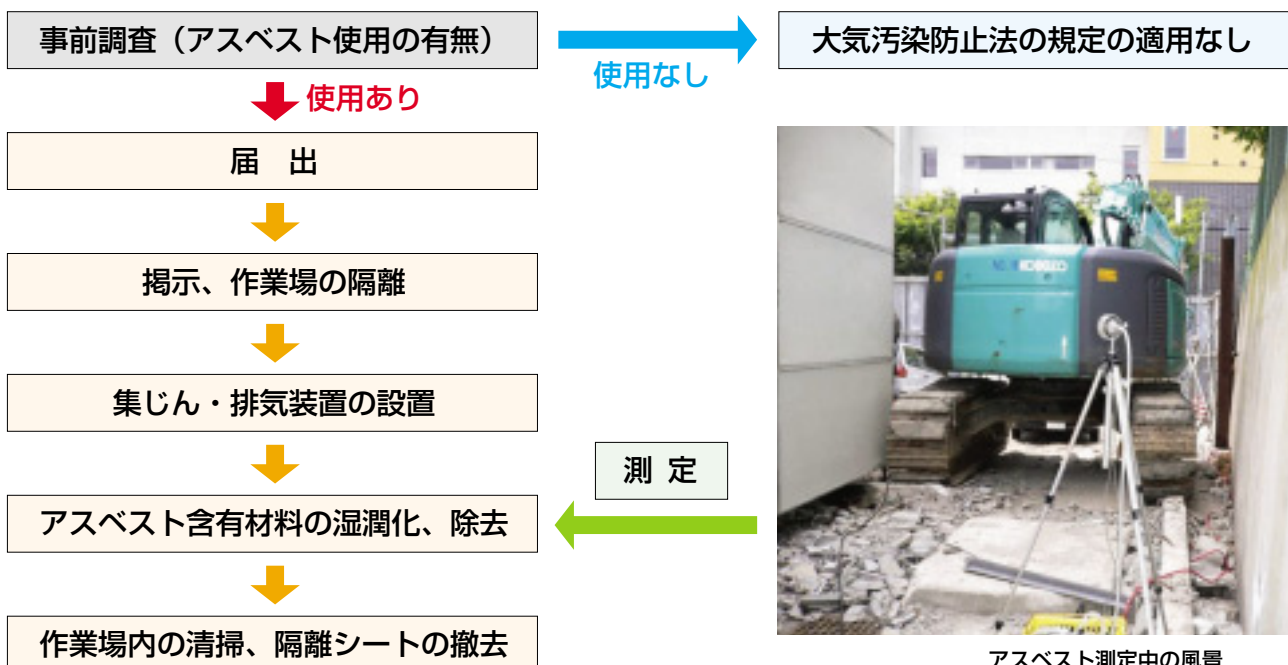
## ▶ 建築物解体等による大気環境中アスベストの測定

「大気汚染防止法」及び「香川県アスベストによる健康被害の防止に関する条例」により、アスベストを含む建材が使用された建物の解体等を行う場合は、届出と飛散防止対策が義務付けられています。

**当研究センター**では、アスベストが使用された建物

の解体等を行う届出があった場合、**全ての施設**について立ち入り調査を実施し、周辺にアスベストが飛散していないことを確認するために、大気環境中のアスベスト濃度の測定を行っています。

### 一般的な手順



アスベスト測定中の風景

# 身の回りの植物に気をつけて！

食中毒は微生物が原因とは限りません。

2008年6月、関東地方で、アジサイの葉を食して、めまい、嘔吐などを起こした食中毒が発生しました。これは、アジサイに含まれる青酸配糖体が原因でした。青酸配糖体は青梅、豆類などに含まれていることが広く知られています。このほかにも通常食することはありませんが、ユリ科植物（スズラン、スイセンなど）

の強心配糖体も有毒であることが知られており、ラッキョウなどとの誤食が報告されています。

香川県でも過去にチョウセンアサガオ、ヨウシュヤマゴボウなどを、ごぼうと誤食した中毒事例がありました。花や葉がある季節は間違えることはありませんが、地上部が枯れた季節は食用の根茎と間違いやすく、気をつける必要があります。

有毒植物	部位	類似する食用植物
トリカブト	若葉	モミジガサ、ニリンソウ、ナンテンハギ
チョウセンアサガオ	葉	オオバ、アシタバ、モロヘイヤ
	根	ゴボウ
ハシリドコロ	新芽、若葉	フキノトウ、イタドリ、タラの芽
ヤマゴボウ	根	モリアザミ
ヨウシュヤマゴボウ	根	ゴボウ
スイセン	葉	ニラ
	鱗茎	タマネギ、ラッキョウ
ドクセリ	根茎	ワサビ
バイケイソウ	若葉	オオバギボウシ、ギョウジャニンニク



チョウセンアサガオ



バイケイソウ

(写真：Wikipediaより引用)

## 2012年麻疹排除に向けて

麻疹は高熱・発疹・カタル症状を主症状とする感染力の強い急性ウイルス感染症です。2006年に麻疹の地域流行が発生し、2007年には全国流行となりました。10～20代を中心とした年齢層で流行し、多数の学校が休講措置を行うなど、社会的な混乱がみられました。また、感染者が修学旅行で麻疹排除国に渡航し国際的な問題にもなりました。

そこで、厚生労働省は、2012年の麻疹の排除に向け、2007年8月、「麻疹排除計画」を策定しました。

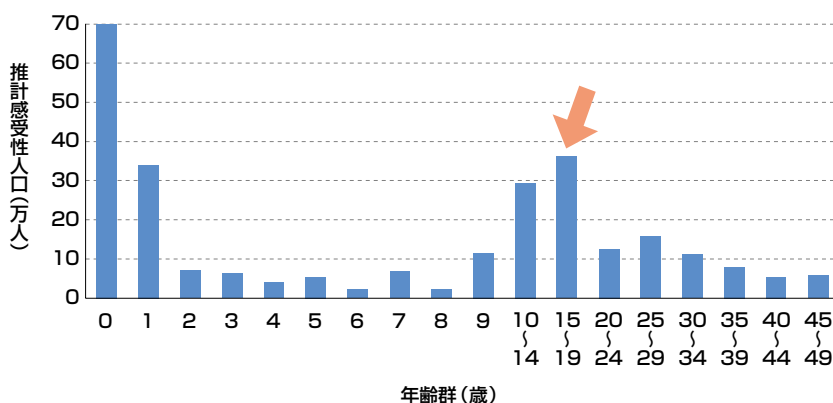
麻疹に対する年齢別感受性人口によると、0歳児で約70万人、1歳児で約33万人、10代で約65万人となっており、10代に感染しやすい人口の出現がみられません（下図）。

麻疹予防にはワクチン接種が有効ですが、ワクチン

の1回接種のみでは取得免疫が不十分なため、2006年6月から2回接種制度が始まりました。さらに2007年の流行を受け、2008年度から2012年度まで毎年13歳と18歳になる約240万人に対し、公費負担でワクチン接種が行われています（予防接種法に基づく5年間の経過措置）。

麻疹排除には国民みんなで取り組んでいかなければなりません。**当研究センターでは**、厚生労働省と地方自治体が協力して行う「感染症流行予測調査事業」に参加しています。「感染症流行予測調査」は、ヒトの麻疹に対する抗体保有状況や予防接種率を調査することで、麻疹ワクチン接種効果を追跡し、今後の流行予測と、予防接種計画のための資料とするものです。

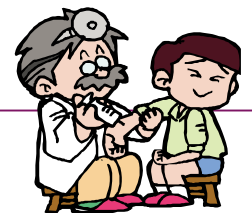
### 麻疹推計感受性人口（2006年度感染症流行予測調査より）



### 麻疹ワクチンの 2回接種制度

（第1期）1歳児

（第2期）小学校入学前1年間



## 1月 保健医療大学臨床検査学科3年生が環境・食品検査学臨地実習



## 2月 環境ISO更新審査に合格!

前回更新から3年が経過したことから、更新審査を平成20年2月8日に受審しました。当日は、(株)日本環境認証機構(JACO)の審査員が来所し、研修室での資料審査の後、現場で実地審査がありました。指導・指摘事項はありませんでした。

そして、3月13日に、JACOから新たな環境マネジメントシステム登録証が発行されました。

## 3月 第6回「かがわ環保研フォーラム」開催

(於：3月6日、3階研修室)

- ため池における水質浄化と底質環境について／笹田康子
- 大気中微小粒子(PM2.5)に含まれる多環芳香族炭化水素類濃度に関する研究／野崎一伸
- うどん湯煮廃液(ゆで汁)の処理技術に関する研究－上向流嫌気性汚泥床(UASB)を用いた高速メタン発酵－／藤田久雄
- 日常食中のビタミンAの摂取量について／安永 恵
- 新生児における先天性代謝異常症等のマス・スクリーニング実施状況について／土取りゆき



## 5月 光化学オキシダント夏季対策スタート(5月10日～9月20日)

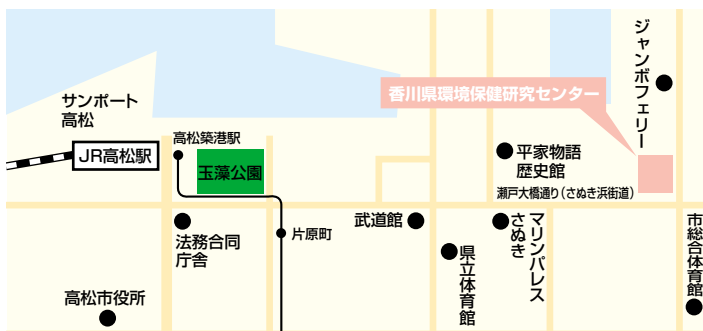


## 6月 センター職員で詰田川河口の清掃活動-環境月間行事-

6月の環境月間には各地で様々な環境保全関連行事が開催されました。当研究センターでは毎年行っている行事に加え、「環境の日」である6月5日終業後に、センター職員で詰田川河口部の清掃活動を行いました。空き缶・ビン類、プラスチックなどが漂着し散乱した護岸は、1時間余りの作業できれいになりました。回収したゴミは軽トラック1台分もあり、市に収集を依頼しました。環境月間の行事として今後も継続して実施することとしています。

## 7月 今年も高校生がインターンシップを体験

高松工芸高校工業化学科2年生の2名がセンターで就業体験を行い、学校の授業では得られない体験をして帰りました。



## かがわ環保研だよりVol.12 平成20年8月

編集・発行 香川県環境保健研究センター  
〒760-0065 香川県高松市朝日町5丁目3-105  
TEL (087) 825-0400 FAX (087) 825-0408

総務企画課	総務担当 企画情報担当	(087) 825-0400 (087) 825-0415
環境科学部門	水質担当 大気・ 常時監視担当	(087) 825-0401 (087) 825-0402 (087) 825-0403
廃棄物・リサイクル部門	廃棄物担当 資源化リサイクル担当	(087) 825-0405 (087) 825-0405
保健科学部門	微生物担当 生活科学担当	(087) 825-0411 (087) 825-0413

E-mail: kanpoken@pref.kagawa.lg.jp

URL: [http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/e\\_center/hoken.htm](http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/e_center/hoken.htm)